

テーマ『水の性質を知る』

《テーマ設定理由》

様々な感触遊びを楽しんでいる姿があり、見た目や状態の変化に疑問を感じたり自ら気付くことで興味関心を持てるようにする。

《環境設定・準備したもの》

バケツ、ジョウロ、泥、水、氷

- ・どろんこ場に魅力を感じられるよう、掘り起こす
- ・自分たちで水を運べるように近くにジョウロやバケツなども用意する

《活動スケジュール》

① どろんこ	6月26日
② 氷	1月15日
③ 雪・霜柱	1月15日

《振り返り・気付き》

慣れ親しんでいる水だからこそ、子ども達も思いのままにかかわり、やってみたい思いがすぐ実現できている。どろんこには汚れを気にすることもあるが、クラスの仲間が大胆にあそび込み子どもがいることや担任のかかわりにより興味が沸いてやってみようとする姿があった為周囲にある関係も大事である。

また、時期によっては水とのかかわりが自然と薄くなることがあるが、園庭に出てみての発見も見られ「なんであるんだろう」と季節を感じながら不思議に思う気持ちが子ども達の思考力が育つ場面でもあるのではないかと考えられた。

《活動内容・子どもの様子》



担任らが泥場を掘り返していると「やってみたい！」と興味を示し、遊び用のスコップやシャベルを持ってくる。

遊びのために、自分たちでやってみたいことやできることを考え行動する姿が見られた。

また、そこへ入ってみると「ぐにゅぐにゅ！」「かたい！」など、土の変化に気付く。「もっとお水をもってこよう！！」と意気込み、何度も水を汲みに行きさらさらとなる。そうすると今度は「お水みたい！」と足踏みをしたり投げ入れてみたりと水が飛び跳ねることに気付いた。

寒さもあり、冷たいものは手洗いの水に少し抵抗がでてきた冬。ある日の朝、園庭へ出ると氷ができていることに気付いた子ども達。「つめたい！」「きらきらしてる～！」と手にとりながら目や手で感じていた。光の反射により見え方が違うことに気付いたり、次第にとけるということにも気付いたようである。

